

熊本県議会議員 内野幸喜

県議会通信

第12号 令和4年2月1日

発行者 県議会議員 内野幸喜

発行所 玉名郡長洲町清源寺393-1

TEL 0968-78-6571 FAX 0968-78-6580

E-mail:k-ucn@nifty.com

URL:<http://www.k-uchino.com>

ご挨拶



県議会議員
内野幸喜

晩冬の候、皆様におかれましては、益々ご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。また、地域の皆様には、日頃より心温まるご指導を頂き深く感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、国内初確認から二年が経過した現在でも、オミクロン株の急拡大による第六波が発生する等、未だ完全なる収束の見通しは立っていません。この間、県民の生命と健康を懸命に守つて頂いている医療従事者、保健所の皆様をはじめとする多くの方々に心から感謝を申し上げます。

今後も「新しい生活様式」の徹底をしつつ、検査体制や三回目ワクチン接種体制の整備、入院病床の更なる確保や宿泊療養施設の体制強化を行う等、県議会としても県と一緒にやって新型コロナ感染症対策に取り組んで参ります。

同時に、地域経済や県民生活の回復も重要です。そのため、様々な施策による感染拡大防止とのベストバランスを図つて参ります。

ところで、昨年十一月には、台湾の半導体受託生産最大手TSMCの本県進出が発表されました。工場建設の投資額は約八千億円（*約四千億円は国の補助）、雇用数は約千五百人ほど、本県にとっていざれも過去最大規模のものとなります。これから本県の発展に大きく寄与するものと期待をしています。

最後になりましたが、昨年六月の定例県議会で行った一般質問の概要を掲載しています。是非、ご一読頂ければ幸いです。

6月定例会で一般質問（令和3年6月18日）

1 新たな流水型ダムの環境アセスメント

質問 知事は、新たな流水型ダムの法に基づく環境アセスメントかそれと同等のアセスを要請され、国は、法同等のアセスを実施すると公表。流域住民は、早く安全・安心を取り戻すことが願いであるが、アセスでダム整備の長期化が懸念される。これまでの国の調査等の成果も活用するなどしてアセスを速やかに完了し、早期にダム整備を実現すべきと考える。そこで、①新たなダムの環境アセスをどう受け止めているか、②法同等のアセスとはどのようなものが想定され、③ダム整備への影響をどう考えているか、知事に尋ねる。

答弁（知事）①法同等のアセス実施は、住民や私の思いを受け止めていただいたものと考える。②具体的に評価項目を設定し、調査、予測、

評価を行い、各段階で、知事、市町村長等の意見を聴取するとされ、法アセスと同様に実施されると考える。③国は新たなダムの構造等の検討に加え、河川整備基本方針見直し等も並行して実施すると考えられ、アセスにこれまでの調査等の成果も活用するとされている。客観的・科学的なアセス実施の上で、できるだけ早期に整備していただく。

2 新広域道路交通計画

質問 県は、新広域道路交通計画を公表し、熊本都市圏の渋滞解消に向け、熊本市中心部と九州縦貫道を結ぶ南北2つの連絡道路と空港までを結ぶ熊本空港連絡道路の3つが新たに高規格道路として位置づけられた。さらに、主要な拠点間の連絡強化として、八代・天草シーライン、有明海沿岸連絡道路等が構想路線とし

て明記された。本県の地理的優位性を生かし、防災・経済面での役割を果たすための道路ネットワークが網羅的に示されたもので、計画を着実に進めることが重要。そこで、計画実現に対する思いを知事に尋ねる。

答弁（知事） 昨年の豪雨災害では、九州縦貫道や南九州西回り自動車道が通行でき、救援活動等が行えた。熊本地震で傷ついた阿蘇へのアクセスは、北側復旧道路等が開通し、新型コロナが収束しない状況でも、交通量は地震前の水準に回復し、観光、経済の再生につながると確信しており、災害時でも人や物の流れを確保する幹線道路ネットワークの重要性を再認識した。今回の計画は、九州各県や県内主要都市との結節に加え、熊本都市圏の渋滞解消や道路の多重性、回遊性向上への方向性を示すことができた。今後、国や関係自治体等と連携して全力で取り組む。

3 空港アクセス鉄道

1) 空港アクセス鉄道の令和2年度調査結果

質問 令和元年度の調査では、費用便益分析（B／C）について、最も重要な目的の一つである定時性の確保が算定されないという課題が判明し、数値の算出に至っていない。知事は、県民や県議会の理解を得るには、元年度調査の課題を明らかにする必要があるとして、継続調査を実施してきたが、その結果について、知事に尋ねる。

答弁（知事） 概算事業費は、ルートの一部線形やトンネル工法の見直し等で、最大24億円のコスト縮減。需要予測は、精度向上で1日当たり前回の7,500人から5,000人に減少。採算性は、国から3分の1補助を得られた場合、採算性を見込めたが、今後の制度拡充の必要性を確認。B／Cは、定時性確保による便益を算出したこと等で1を上回り、鉄道整備で期待される効果も整理した。

2) 新広域道路交通計画との関連



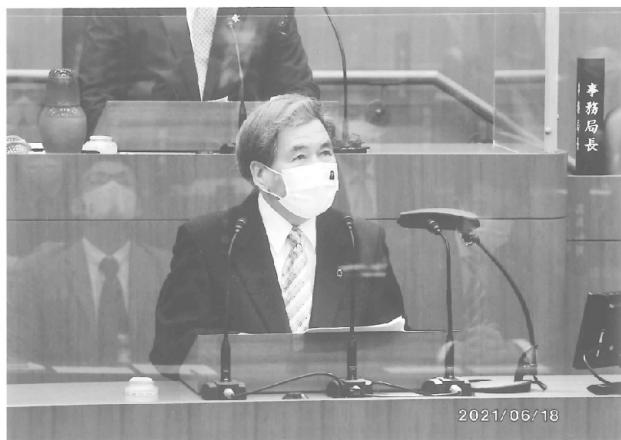
質問 福岡空港の優位性は、新幹線や西鉄電車、高速バス、自家用車等というアクセス方法の多さからと思う。経済界も二度、アクセス鉄道整備を要望されており、企業誘致への優位性等を捉えてのものと思われ、実現に向け、次の段階に進むべきと考える。一方、新広域道路交通計画で、熊本空港連絡道路も検討され、鉄道と道路は一方でよいとの声もあるかもしれないが、いずれも必要と考える。鉄道は大量輸送性のある空港アクセスや新駅周辺の新たなまちづくり等も期待され、道路は渋滞解消等に寄与し、貨物便拡充のための物流道路としても必要。そこで、アクセス鉄道と空港連絡道路との関連について、知事の考えを尋ねる。

答弁（知事） 阿蘇くまもと空港は、将来的に622万人の利用を見据え、九州のハブ空港に位置づけられると確信しており、定時性・速達性・大量輸送性に優れ、早期実現性が高い鉄道整備が不可欠と考える。鉄道と道路は、それぞれの強みを発揮することでアジアのゲートウェーにふさわしい空港連絡交通網が実現する。アクセス鉄道は、既に詳細な検討を進めている段階。高規格道路は、ルート等をこれから決定していくが、渋滞対策として、まずは中心部から高速道路までの整備を優先し、空港アクセス部分は、鉄道との関係に配慮して、相乗効果が最大限発揮されるよう取り組む。

4 ゼロカーボン社会・くまもとの実現

質問 知事は、第六次環境基本計画の議案説明で、2030年度の温室効果ガス削減目標を、全国トップレベルの2013年度比50%削減を目指すと表明。挑戦レベルの高い目標に、県民や事業者の中には、何をどのように取り組めば達成できるのか悩まれる方も相当数おられると思う。しかし、今できることから始めることが必要で、その道筋を示すのも国や県の役割と思う。その点も含め、50%削減にどのように取り組むのか、知事に尋ねる。

答弁（知事） 1つは、家庭部門。省エネ等に加え、さらなる理解と実践が必要。一例が、バイオディーゼル燃料の原料となる天ぷら油回収で、見える化する取組を広げ、家庭のCO₂削減を進める。2つ目は、産業・業務部門。意欲的な企業を中心に、7月から削減に係る協議を開始し、課題解決への検討を行い、CO₂削減と新たなビジネス創出等にもつなげる。3つ目は、県庁率先行動。4月から再生可能エネルギーによる電力調達を開始。7月から再エネ発電設備等の導入調査にも着手し、早期導入を図り、再エネの地産地消につなげる。



5 新型コロナワクチン接種

質問 新型コロナのワクチン接種は、21日から職域接種も始まり、さらに加速することが期待される。そこで、①県内の現在のワクチン接種状況、課題や今後の見通しを尋ねる。②市町村から、保健所職員、教員、消防士、警察官等への優先接種ができないかとの意見がある。一般接種の優先対象は、自治体の裁量だが、県が指針を示すことが拡充につながると思うし、熊本ワクチン接種モデル公表会見で、県独自の優先対象を検討することだった。そこで、優先接種の県の考えを尋ねる。③予防接種

により健康被害が出た場合、自治体ごとに予防接種健康被害調査委員会を開くこととなるが、今回のワクチンも同様か。初めて、かつ専門的な調査であり、県が一体的に進められないのか、以上、健康福祉部長に尋ねる。

答弁（健康福祉部長） ①医療従事者等は、来週中に終了予定。高齢者は、打ち手が確保され、7月末までに終了見込み。一部市町村では、早ければ8月中旬に一般接種も終了すると聞く。年末の感染拡大を防ぐため、遅くとも11月中旬に、希望者全てへの接種完了を目指す。そのため、県民広域接種センターの運営等に取り組む。②同センターは、福祉サービス従事者、保育士、教員、警察官等を優先する。これを基本上に、市町村の意見も伺い、早期接種の考え方を近日中に示したい。③定期予防接種では、請求があれば、市町村は必ず委員会を開催することになっている。一方、コロナワクチンでは、アナフィラキシー等の場合は省略が可能。さらに、複数市町村での合同開催や都道府県への委任も認められている。県では、市町村の意向を確認し、必要な支援を検討してまいる。

6 國際バカロレア認定に向けた取組

質問 県教育委員会は、県立八代中学・高校を国際バカロレア認定校とすることを目指す決定をした。認定されれば、九州内の公立学校初となる。高校で導入するプログラムは、国際的に通用する大学入学資格の取得が可能となり、本県生徒には魅力的だと思う。しかし、教員確保やプログラムに精通した教職員養成といった課題もある。そこで、①両校及び本県に導入する意義と、②認定に向けた取組やスケジュールを、教育長に尋ねる。

答弁（教育長） ①英語教育日本一など本県が目指す教育と合致する点と、国際的に通用する大学入学資格を得ることができる点で、県全体のグローバル人材育成等につながると確信する。今後は、八代港を活用した国際交流等の後押しにもなると考える。②今年度は、準備委員会で教育内容等の検討を行い、教員育成を開始する。来年度以降は、研修等、実践に向けた教育環境整備に努め、令和6年度から八代中学、令和9年度から八代高校でのスタートを目指して準備を進めてまいる。

7 新たな動物愛護センターの整備と動物愛護（要望）

「さくらねこ」って知っていますか？

耳の先をカットされた猫を見たことがありませんか？

耳の先をカットされた猫は去勢・避妊の手術を施された猫です。

耳の先をカットされた猫はカットされた耳が桜の花びらに似ていることから「さくらねこ」と呼ばれています。

オスの猫は右の耳、メスの猫は左の耳がカットされています。

去勢・避妊の手術が施されることによって猫が増えることを抑えることができます。

結果として、飼い主のいない可哀想な猫を少なくし、糞尿被害等も軽減できます。



©公益財団法人どうぶつ基金

熊本県では飼い主のいない猫に対する去勢・避妊手術費用の一部を補助しています。

補助金額　オス1頭 5,000円　メス1頭 10,000円

詳しくは県地域振興局衛生環境課へお問い合わせ下さい。

*自治体によっては、「どうぶつ基金」等の民間団体により無料手術チケットが交付されることがあります。



1頭のメス猫が1年に3回ほど妊娠し、平均してそれぞれ5頭(4~8頭)ほど出産します。そのため、1年後に20頭以上、2年後には80頭以上となります。去勢・避妊がされていない猫への無責任な餌やりは不幸な猫(病気や怪我、事故等にあつ猫)を増やすだけではなく、糞尿被害等、地域の方々へ迷惑を掛けることにも繋がります。

新熊本県動物愛護センター(仮称)完成予想図

令和5年度末に開所予定の新センターは、子どもから大人まで幅広い年代の方々に、犬や猫の適正飼養等について学んでもらえる多目的スペースや、譲渡を希望する犬や猫と実際に触れ合えるドッグラン、猫の展示ブースなどを設置する予定となっています。



県議会通信



お読みでない方はお知らせ下さい。
直ぐにお届けします！

